

経営比較分析表（令和元年度決算）

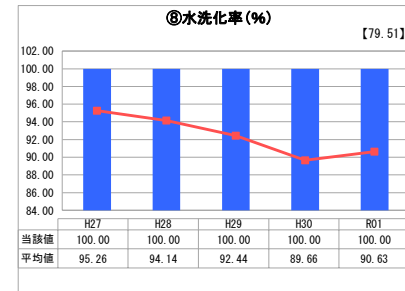
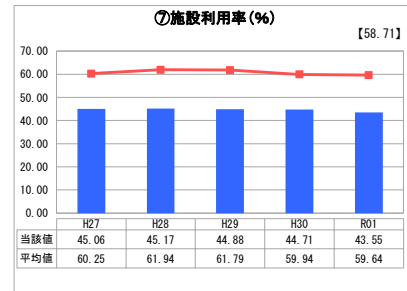
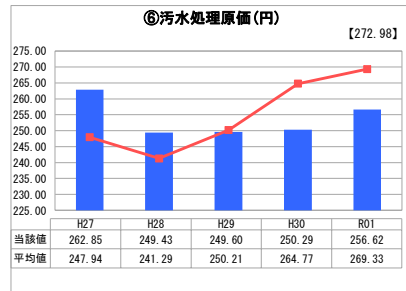
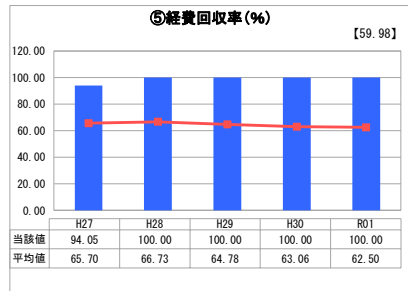
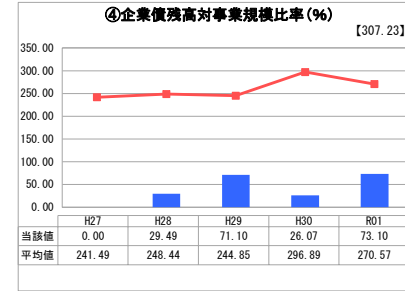
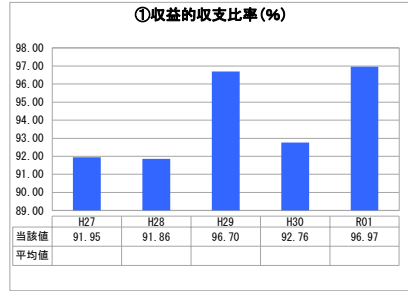
群馬県 東吾妻町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	35.60	100.00	3,767

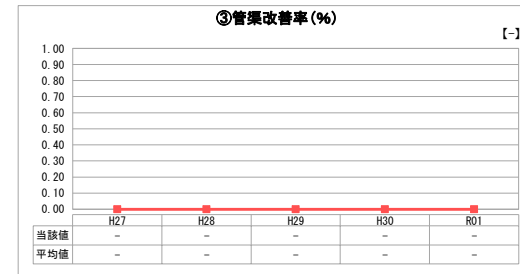
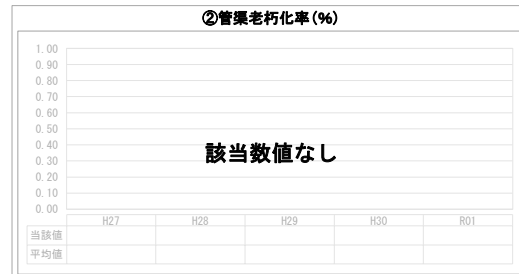
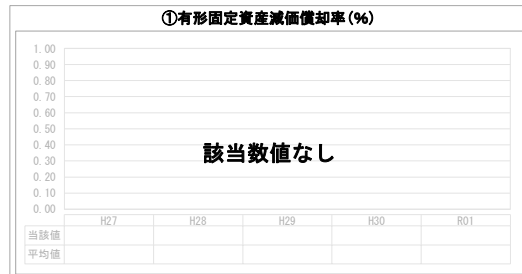
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,556	253.91	53.39
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,806	0.59	8,145.76

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
□	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①料金収入や一般会計からの繰入金等の総収益で、総費用に地方債還金を加えた費用をどの程度賄えているかを表す指標である収益的収支比率について、平成30年度に比べ令和元年度は約9%と上がっている。料金収入が増加したためと考えられる。

④料金収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す企業債残高対事業規模比率は、一般会計からの繰入金によるものである。また、類似団体と比較してかなり少ない。

⑤使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表す経費回収率は、近年低下傾向の中平成27年から5年間は94%~100%であり、ほとんどを使用料金収入で賄えている状況になる。類似団体と比較して極めて良い。

⑥有収水量1m³あたりの汚水処理に要した費用であり、汚水資本費・汚水維持管理費の両方を含めた汚水処理に係るコストを表した汚水処理原価は平成27年から平成28年まで類似団体より高くなっている。その後の3年間はほぼ横ばいで推移し、類似団体と比較して良い傾向であるので維持してきたい。

⑦施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する施設利用率は、平成27年からの5年間で全て50%を割り込んでいる。各世帯の居住人員が少ないため、最も小さい5人槽でも能力を余しているためであり、類似団体と比較では悪い。

⑧現在処理区域人口のうち、実際に水洗便所を設置している人口の割合を表した水洗化率について100%を維持している。類似団体との比較では良い。

2. 老朽化の状況について

浄化槽の耐用年数は概ね30年と言われている。東吾妻町では平成9年より、事業を実施しているため、一番古い浄化槽は使用開始から20年が経過している。現在は、広帯を活用し、浄化槽を少しでも長く使ってもらえるよう適正な使用の啓蒙を行なっている。今後は浄化槽の修理や入替等の検討も必要となるため、基金積立を実施することで、将来の浄化槽補修・更新について対応していく。

全体総括

浄化槽市町村整備事業は、当初から定額料金制を採用したため、ほとんどの経費を料金収入で賄えている。事務のさらなる効率化を進め、安定した事業経営が可能である。既存の浄化槽についても、極力長期間使用できるように浄化槽教室やホームページなど情報を提供し、使用者の意識向上を図っている。ただし、将来的な浄化槽の補修・更新については、人口減少など社会的要因を踏まえた上で、町として基金を積立しながら対応を検討していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。